

サトイモ科

セツピコテンナンショウ

Arisaema seppikoense Kitam.

兵庫県ランク… A

環境省ランク… CR

■ 県内分布

東播磨、西播磨、但馬

■ 国内分布

本州(兵庫県)

■ 選定理由

人為性		特殊性		学術性	
生育環境破壊		特殊生育環境	○	特殊な分布	○
観賞用等採取	○	特異な生態		分布の限界	○
				希少	○

詳細は非公開

■ 特記事項

兵庫県固有種。

■ 保護上の留意点

生育地である樹林の保全が重要である。



写真提供:小林禮樹

■ 種の概要

山地の林下に生える。葉は1(まれに2)個で、5-9枚の小葉を鳥足状につけるが、葉軸はあまり発達しない。小葉は披針形から狭長卵形、やや長鋭尖頭で全縁。花期は5-6月。花柄は雄株の1-2cmに対して、雌株では10cm以上に長くなるという特徴をもつ。苞部は狭卵形で長鋭尖頭、先はしだいに狭まって長く伸び、暗紫色で白条があり、口辺部はわずかに開出し、筒部は紫褐色あるいは緑色で白条がある。付属体は棒状で、長さ2-3.5cmになり、径1-2mm、円頭あるいはややふくらむ。